



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月10日

上場会社名 雪印メグミルク株式会社 上場取引所 東・札
 コード番号 2270 URL <https://www.meg-snow.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 雅俊
 問合せ先責任者 (役職名) 広報IR部長 (氏名) 左柄 正典 (TEL) 03-3226-2124
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	141,344	△1.0	3,980	△39.0	4,668	△35.5	1,343	△72.0
2022年3月期第1四半期	142,820	—	6,523	29.8	7,242	32.3	4,800	51.1

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 482百万円(△88.1%) 2022年3月期第1四半期 4,059百万円(9.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	19.90	—
2022年3月期第1四半期	71.08	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年3月期の期首から適用しております。このため、当該基準を適用する前の2021年3月期第1四半期の売上高に対する対前年同四半期増減率は記載しておりません。なお、2021年3月期から当該会計基準等を適用したと仮定して算定した増減率は2.1%増であります。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第1四半期	397,432	205,599	51.0	2,999.62
2022年3月期	401,890	209,528	51.5	3,061.75

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 202,580百万円 2022年3月期 206,777百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	—	—	60.00	60.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	288,000	0.4	7,000	△42.7	6,500	△51.0	2,200	△74.3	32.58
通期	575,000	3.0	14,000	△22.5	15,500	△22.5	9,300	△22.9	137.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期1Q	70,751,855株	2022年3月期	70,751,855株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	3,216,450株	2022年3月期	3,216,075株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期1Q	67,535,607株	2022年3月期1Q	67,532,559株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

業績予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

(四半期決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

四半期決算補足説明資料は四半期決算短信に添付しております。

当社は2022年8月10日(水)にアナリスト、機関投資家向けの電話会議を開催する予定です。

この電話会議における四半期決算説明会資料については、同日当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	12
(重要な後発事象)	12

(補足説明資料)

2023年3月期 第1四半期決算短信 補足説明資料

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、持ち直しの動きがみられるものの、ウクライナ情勢の長期化などもあり、先行きは依然不透明な状況が続いております。

食品業界においては、世界的な原材料価格やエネルギー価格等の高騰により、食品をはじめ様々な商品の値上げが公表されることにより、消費者の消費マインドに影響を与えております。また、外食需要はコロナ禍からの回復の兆しが見られるものの、依然として回復途上にあります。

このような環境下、当社グループは「グループ中期経営計画 2022」に基づき、「4つの事業分野（乳製品事業分野、市乳事業分野、ニュートリション事業分野、飼料・種苗事業分野）における収益基盤の確立」に向けた取り組みを進めました。

この中では、機能性を軸としたヨーグルトおよびチーズなどの主力商品の戦略的拡大とプロダクトミックスの更なる改善、ニュートリション事業分野におけるマーケティング投資の継続による規模拡大と収益確保の両立、飼料・種苗事業分野における戦略的拡大と収益基盤の整備、ならびにグループ経営資源の活用拡大やバリューチェーンの生産性向上によるグループ総合力の強化等に努めました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大が継続する中、従業員の感染予防に取り組み、お客様へ安全で安心して頂ける商品の安定供給に努めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の連結経営成績につきましては、売上高は141,344百万円(前年同期比1.0%減)、営業利益は3,980百万円(前年同期比39.0%減)、経常利益は4,668百万円(前年同期比35.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,343百万円(前年同期比72.0%減)となりました。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、当第1四半期連結会計期間より、株式会社ベルネージュダイレクトは重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

また、当第1四半期連結会計期間において、全国農業協同組合連合会が優先株式を普通株式へ転換したことにより、協同乳業株式会社に対する当社の持分比率が減少し関連会社に該当しなくなったため、同社を持分法適用の範囲から除外しております。

セグメントごとの当第1四半期連結累計期間の業績は次のとおりです。なお、セグメントごとの売上高につきましては、外部顧客に対する金額を記載しております。

① 乳製品

当セグメントには、乳製品(チーズ、バター、粉乳等)、油脂、ニュートリション事業(機能性食品、粉ミルク等)等の製造・販売が含まれております。

売上高は58,202百万円(前年同期比0.0%増)、営業利益は2,830百万円(前年同期比20.3%減)となりました。

(売上高の状況)

バターは家庭用バター主力品の生産体制整備を進めるなど販売拡大に積極的に取り組んだことから前年を上回りました。油脂は市場全体の落ち込みや価格改定の影響により前年を下回りました。

チーズは、「さけるチーズ」の販売が好調に推移しましたが、「スライスチーズ」や「6Pチーズ」などのプロセスチーズが食品等生活必需品の値上げ環境下における消費マインドの低下などにより前年を下回りました。その結果、チーズ全体では前年を下回りました。

機能性食品は定期購入型通販ビジネスが引き続き好調に推移したこと、積極的なマーケティング投資や健康志向の高まりにより引き続き伸長しました。

(営業利益の状況)

原材料コストの増加やオペレーションコストの増加、販売物量の減少などにより減益となりました。

② 飲料・デザート類

当セグメントには、飲料(牛乳類、果汁飲料等)、ヨーグルト、デザートの製造・販売が含まれております。売上高は60,348百万円(前年同期比4.8%減)、営業利益は497百万円(前年同期比72.2%減)となりました。

(売上高の状況)

飲料は、飲料タイプとしては日本初の「骨密度を高める」機能性表示食品となる「MBPドリンク」の販売が好調に推移しましたが、食品等生活必需品の値上げ環境下における消費マインドの低下などにより牛乳を中心に前年を下回りました。

ヨーグルトは、「牧場の朝ヨーグルト」や「ナチュレ恵megumi」プレーンヨーグルトなどの販売が堅調に推移しましたが、前年度のテレビ放映による機能性ヨーグルトの増加が今年度は落ち着いたことなどにより、全体では前年を下回りました。

デザートは、新商品の「雪印コーヒープリン」や定番商品である「CREAM SWEETS」シリーズの販売が好調に推移したことなどにより、前年を上回りました。

(営業利益の状況)

原材料コストの増加やオペレーションコストの増加、販売物量の減少などにより減益となりました。

③ 飼料・種苗

当セグメントには、牛用飼料、牧草・飼料作物種子、野菜種子の製造・販売、造園事業が含まれております。売上高は13,853百万円(前年同期比10.7%増)、営業利益は422百万円(前年同期比49.9%減)となりました。

(売上高の状況)

配合飼料販売価格の上昇などにより当セグメント全体で前年を上回りました。

(営業利益の状況)

原材料コストの増加による粗利益の減少などにより減益となりました。

④ その他

当セグメントには、共同配送センター事業、不動産賃貸事業等が含まれております。

売上高は8,940百万円(前年同期比2.9%増)、営業利益は205百万円(前年同期比37.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(単位：百万円)

区分	2022年 3月期末	2023年 3月期 第1四半期	増減金額	主な増減理由
資 産	401,890	397,432	△4,457	現金及び預金△6,554 投資有価証券△2,212 受取手形、売掛金及び契約資産+3,596
負 債	192,361	191,832	△529	賞与引当金△2,322 未払法人税等△1,404 支払手形及び買掛金+3,802
純資産	209,528	205,599	△3,928	利益剰余金△3,108

② キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

区分	2022年 3月期 第1四半期	2023年 3月期 第1四半期	増減金額	主な増減理由
営業活動による キャッシュ・フロー	8,487	2,186	△6,300	税金等調整前四半期純利益△4,801 未収入金の増減額△3,497 仕入債務の増減額+1,999
投資活動による キャッシュ・フロー	△5,116	△5,176	△59	有形及び無形固定資産の取得による支出 +531 投資有価証券の取得による支出△488
財務活動による キャッシュ・フロー	△3,777	△4,073	△295	配当金の支払額△1,316 連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の 取得による支出+1,076
現金及び現金同等物の 四半期末残高	21,550	13,423	△8,126	—

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年5月13日の「2022年3月期 決算短信」で公表いたしました連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日公表の「2023年3月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,991	13,436
受取手形、売掛金及び契約資産	72,297	75,893
商品及び製品	47,408	47,811
仕掛品	890	1,083
原材料及び貯蔵品	13,851	14,954
その他	6,009	6,096
貸倒引当金	△309	△344
流動資産合計	160,139	158,931
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	55,113	54,553
機械装置及び運搬具（純額）	58,973	57,456
土地	49,426	49,439
その他（純額）	15,379	16,266
有形固定資産合計	178,892	177,715
無形固定資産		
のれん	582	614
その他	2,709	2,713
無形固定資産合計	3,291	3,327
投資その他の資産		
投資有価証券	48,107	45,895
繰延税金資産	2,936	2,876
その他	8,715	8,875
貸倒引当金	△193	△188
投資その他の資産合計	59,566	57,458
固定資産合計	241,751	238,501
資産合計	401,890	397,432

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	53,447	57,249
電子記録債務	5,277	5,928
短期借入金	17,969	18,306
未払法人税等	2,227	823
賞与引当金	4,876	2,553
その他	29,336	28,744
流動負債合計	113,134	113,606
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	39,378	39,167
繰延税金負債	6,607	5,877
再評価に係る繰延税金負債	3,815	3,815
役員退職慰労引当金	14	14
退職給付に係る負債	8,826	8,965
資産除去債務	1,250	1,253
その他	9,333	9,131
固定負債合計	79,226	78,225
負債合計	192,361	191,832
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,000	20,000
資本剰余金	17,027	17,027
利益剰余金	147,231	144,122
自己株式	△5,347	△5,348
株主資本合計	178,911	175,802
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,976	17,366
繰延ヘッジ損益	90	145
土地再評価差額金	8,571	8,571
為替換算調整勘定	326	764
退職給付に係る調整累計額	△99	△69
その他の包括利益累計額合計	27,866	26,778
非支配株主持分	2,750	3,019
純資産合計	209,528	205,599
負債純資産合計	401,890	397,432

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	142,820	141,344
売上原価	118,072	118,381
売上総利益	24,747	22,963
販売費及び一般管理費	18,223	18,983
営業利益	6,523	3,980
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	313	422
持分法による投資利益	357	180
為替差益	—	99
その他	247	216
営業外収益合計	919	918
営業外費用		
支払利息	102	84
その他	99	145
営業外費用合計	201	230
経常利益	7,242	4,668
特別利益		
固定資産売却益	0	1
国庫補助金	—	25
その他	—	1
特別利益合計	0	28
特別損失		
固定資産売却損	23	0
固定資産除却損	246	300
減損損失	93	53
火災損失	—	2,239
その他	—	25
特別損失合計	362	2,618
税金等調整前四半期純利益	6,880	2,078
法人税等	2,031	683
四半期純利益	4,848	1,395
非支配株主に帰属する四半期純利益	48	51
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,800	1,343

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	4,848	1,395
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,168	△1,470
繰延ヘッジ損益	△17	54
為替換算調整勘定	329	465
退職給付に係る調整額	94	39
持分法適用会社に対する持分相当額	△27	△1
その他の包括利益合計	△789	△912
四半期包括利益	4,059	482
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,987	408
非支配株主に係る四半期包括利益	72	74

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,880	2,078
減価償却費	4,265	4,244
減損損失	93	53
持分法による投資損益(△は益)	△357	△180
のれん償却額	24	25
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△12	0
賞与引当金の増減額(△は減少)	△2,484	△2,326
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△185	△201
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	202	91
固定資産除売却損益(△は益)	268	298
受取利息及び受取配当金	△314	△422
支払利息	102	84
未収入金の増減額(△は増加)	4,292	794
売上債権の増減額(△は増加)	△3,846	△3,164
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,745	△1,427
仕入債務の増減額(△は減少)	2,286	4,285
その他	1,905	△515
小計	11,374	3,718
利息及び配当金の受取額	387	479
利息の支払額	△111	△89
法人税等の支払額	△3,163	△1,921
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,487	2,186
投資活動によるキャッシュ・フロー		
貸付けによる支出	—	△1
貸付金の回収による収入	22	1
有形及び無形固定資産の取得による支出	△5,264	△4,732
有形及び無形固定資産の売却による収入	1	17
投資有価証券の取得による支出	△4	△492
投資有価証券の売却による収入	0	—
その他	127	31
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,116	△5,176
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	358	312
長期借入れによる収入	20	—
長期借入金の返済による支出	△224	△216
自己株式の取得による支出	△1	△0
配当金の支払額	△2,658	△3,975
非支配株主への配当金の支払額	△2	△2
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△1,076	—
その他	△192	△190
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,777	△4,073
現金及び現金同等物に係る換算差額	127	179
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△279	△6,882
現金及び現金同等物の期首残高	21,829	19,979
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	326
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,550	13,423

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント (注) 1				その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 4
	乳製品	飲料・ デザート類	飼料・種苗	計				
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	58,201	63,416	12,514	134,132	8,687	142,820	—	142,820
外部顧客への売上高	58,201	63,416	12,514	134,132	8,687	142,820	—	142,820
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,156	25	219	3,401	3,089	6,491	△6,491	—
計	61,357	63,442	12,734	137,534	11,777	149,311	△6,491	142,820
セグメント利益	3,551	1,792	843	6,187	327	6,514	9	6,523

(注) 1. 報告セグメントの売上高は、主に「商品または製品の販売に係る収益」によるものです。

2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、共同配送センター事業および不動産賃貸事業等が含まれております。売上高は、主に「配送サービスに係る収益」によるものです。

3. セグメント利益の調整額9百万円は、セグメント間の取引消去金額であります。

4. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行なっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント (注) 1				その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 4
	乳製品	飲料・ デザート類	飼料・種苗	計				
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	58,202	60,348	13,853	132,403	8,940	141,344	—	141,344
外部顧客への売上高	58,202	60,348	13,853	132,403	8,940	141,344	—	141,344
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,656	28	306	3,991	3,178	7,170	△7,170	—
計	61,858	60,376	14,160	136,395	12,119	148,515	△7,170	141,344
セグメント利益	2,830	497	422	3,750	205	3,956	24	3,980

(注) 1. 報告セグメントの売上高は、主に「商品または製品の販売に係る収益」によるものです。

2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、共同配送センター事業および不動産賃貸事業等が含まれております。売上高は、主に「配送サービスに係る収益」によるものです。

3. セグメント利益の調整額24百万円は、セグメント間の取引消去金額であります。

4. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行なっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「(4)四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

2022年6月30日に発生した持分法適用関連会社であるSBSフレック株式会社阿見物流センターの火災により、2023年3月期第1四半期連結累計期間において、棚卸資産の損失額等を合理的に見積り、火災損失として特別損失2,239百万円を計上しました。

また、2023年3月期第2四半期連結累計期間において、SBSフレック株式会社で発生が見込まれる物理的な建物等の資産の毀損額および保管商品の破損などの損失額を持分法投資損失として1,088百万円計上する見通しであります。金額は現時点での見積りであり、今後変動する可能性があります。